

2021 年度 小委員会活動成果報告

(2022 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	比較居住文化小委員会	主 査 名：前田 昌弘 就任年月：2020 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (住宅計画運営委員会)	委員長名：小野田 泰明 主 査 名：清水 郁郎
設 置 期 間	2020 年 4 月 ～ 2022 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>人・物・情報が世界規模で行きかう現在、それらの要因に影響を受け、居住の質も劇的に変化している。こういった状況下、フィールドワークによる居住文化の研究および、それをもとした多様な展開を推進し、建築学の発展に寄与する。各年度とも以下の活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に根ざした計画手法の集積および、その研究 2. フィールドワークによる居住文化研究に関する情報の発信 3. フィールドワーク事例の見学会の開催 4. フィールドワークを主体とした研究を行ってきた研究者による、研究の視座および方法論を紹介する書籍の刊行準備 5. 上記目的にそった拡大小委員会および公開研究会の開催 <p>・初年度：①拡大小委員会、公開研究会等の開催、②書籍「建築フィールドワークの未来形（仮）」の刊行に向けた作業、③ウェブサイトによる情報発信 ・2年度：①拡大小委員会、公開研究会等の開催、②書籍「建築フィールドワークの未来形（仮）」の刊行に向けた作業、③ウェブサイトによる情報発信</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	<p>主査 前田 昌弘 (京都大学大学院人間・環境学研究科) 幹事 栗原 伸治 (日本大学生物資源科学部) 幹事 本間 健太郎 (東京大学生産技術研究所) 委員 稲垣 淳哉 (エウレカ) 井本 佐保里 (日本大学理工学部) 上北 恭史 (筑波大学芸術系) ヴァル・エリフ・ベルナ (東京文化財研究所文化遺産国際協力センター) 内海 佐和子 (室蘭工業大学大学院工学研究科) 小林 広英 (京都大学大学院地球環境学学) サキャ・ラタ ((立命館大学 衣笠総合研究機構 歴史都市防災研究所) 清水 郁郎 (芝浦工業大学工学部) 那須 聖 (東京工業大学大学院総合理工学研究科) 濱 定史 (山形大学工学部) 山田 協太 (筑波大学芸術系)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	「建築フィールド学」出版 WG：建築フィールドワークの拡張や実践への展開に関わる取り組みを集積し、新しい建築計画学の方法論を展望する書籍「建築フィールド学（仮）」の刊行に向けた準備作業を行う。	
2021 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s25/

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	

<p>催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画</p>	<p>公開研究会「フィールドワーク×デザイン：フィールドワーク技術の展開先としての「デザイン」を考える」</p> <p style="text-align: right;">参加者数 47名</p>
<p>大会研究集会</p>	
<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 拡大委員会，公開研究会を通じて，近年の当小委員会におけるフィールドワークの拡張（建築計画学の隣接領域との連携，実践的活動への展開）についての議論をさらに深めることができた。 2. 出版企画について「建築フィールドワークの未来形（仮）」については，コロナ禍で海外でのフィールドワークが難しい状況下ということもあり，準備があまり進んでいないが，議論は進めている。
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. コロナ禍を踏まえたフィールドワークの展開についてさらに議論する 2. 出版企画の準備を進める